

2026「競技者必携」審判の部 改訂・修正点

P20

1. 公認審判員規程

第7条(認定会参加資格)

※改訂理由(修正理由)

公認審判員登録数の減少等の現状を鑑み、選考会参加資格の「1年を経過し」の基準を緩和し、「応答月以上」に修正した(公式記録員の認定会参加資格と同様の形とした)。

第7条(認定会参加資格)

第1種公認審判員認定会には第2種公認審判員の資格を取得して1年を経過(応答月以上)し、かつ、所属支部長の推薦を得た者でなければ参加することができない。

2 第2種公認審判員認定会には第3種公認審判員の資格を取得して1年を経過(応答月以上)し、かつ、所属支部長の推薦を得た者でなければ参加することができない。

3 第3種公認審判員認定会にはルールの正しい適用と審判技術の習得を目指す熱意を持った者でなければ参加することができない。

P61

6. 審判実務のために

(4) 塁審の位置と姿勢

※改訂理由(修正理由)

P71の「7.審判員の基本動作」の中の「球審・塁審の構え」に同様の文章があり、その部分との整合性を図り、文章表現を統一するため、「腰を落として」の部分を削除した。

(4) 塁審の位置と姿勢 この部分を削除

走者が塁にいないときは、両手を握り、ズボンのポケット前に置いて、どちらの方向にでもすぐに動ける状態でプレイに備える。

走者が塁にいるときは、投手が投球動作に入ったら球審に合わせて腰を落として、どちらの方向にでもすぐに動ける状態で、両手を握り両足の大腿の付け根付近に軽く添え、次のプレイに備える。

P62

6. 審判実務のために

(5) 塁審の動きと判定位置

ア.フォースプレイ

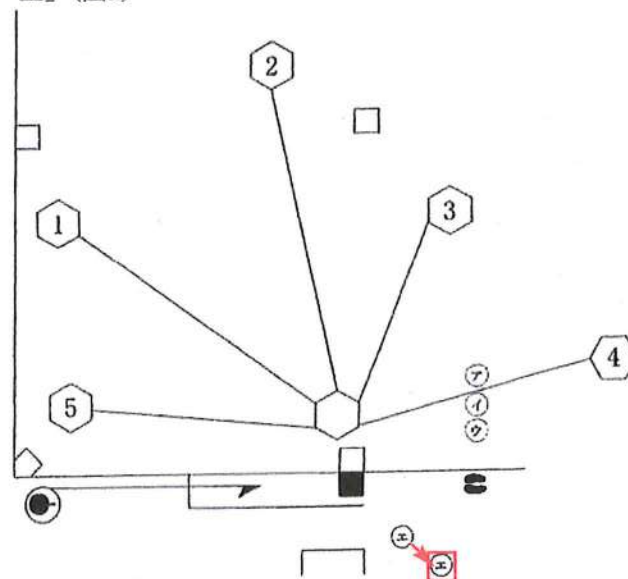
※改訂理由(修正理由)

図aの「エ」の判定位置を実際に試合で行っている判定位置に修正した(右下に移動させた)。

(5) 塁審の動きと判定位置

ア. フォースプレイ

【一塁】(図a)



P80

7. 審判員の基本動作

ホームラン

コール・シグナル

※改訂理由(修正理由)

審判員が実際に行っている動作に合わせ、文言を修正した。

<p>言葉用語</p>	<p>打球と進塁 ツーベース</p>	<p>ホームラン</p>
<p>姿勢と構え</p>	<p>打球が、間接にフェンスを越えたか、または競技場外に出たかを確認する。</p>	<p>打球が、直接フェンスを越えたかどうかを確認する。</p>
<p>コール・シグナル</p>	<p>確認した塁審は、“ボールデッド”とコールし、右手を高く挙げ2本の指を立て“ツーベース”とコールする。 球審もこれに同調する。 ボールデッドは シグチャーも</p>	<p>確認した塁審は、右手を挙げて人差し指を伸ばし、時計回りに水平に円を描く。 概ね3回</p>
<p>ゼスチャー</p>		

2026「競技者必携」用具の部 改訂・修正点

P168

◎オフィシャルバットの 検定マークと表示

④号数

※改訂理由(修正理由)

ゴムボールが新意匠球となる
ことに伴い、

3号バット→12inch バット

2号バット→11inchバット

と順次、変更となっていく予定の
ため、該当部分を修正した。

1. 用具の手引 (抜粋)

◎オフィシャルバットの検定マークと表示

(1) 金属製バット 金属製バットには次の表示がある。

① 検定マーク

(ア)



・外径2.5cm
・内径1.5cm
・No. 検定番号
内部にはJSA以
外の文字を入れ
てはいけない。

(イ)



・大きさ
横 2.5cm以上。
・色 単色とする。
2色以上使用す
る場合は、指定さ
れた色。

(ウ)



100

(エ)



ゴム

(オ)



② 証紙 ③ 対人賠償責任保険

・(ウ) 新ゴム・革ボール用バット検定マーク
・(エ) 新ゴムボール用検定マーク
・(ウ)(エ)の新マーク表示のバットについては、購入時、証紙の貼付無し
・(オ) 旧基準(革ボール用バット)で証紙の貼付無し(無検定品)
・平成28年度以降の革ボール使用大会では(ウ)の表示のあるバットしか使用できない



④ 号 数

12inch、11inch、1号の表示

ア. 安全グリップで、すべすべした電気工専用タイプのテープは不正である。

検定マークは「グリップ」と「メーカーマーク」の中間か、メーカーマークが2つあるときはその中間に入れること。

木製バットにおいても、新検定マークの表示のあるバットは、購入時、証紙の貼付無し

② 日本協会証紙

下部の文字の他は、金属バットに貼付されているものと同じである。(金属バットのアイ項は木製バットにも適用される)

③ 号 数 12inch、11inch、1号の表示

◎オフィシャルバットの規格基準

名 称	長 さ	最も太い部分の直径と誤差	重 さ	安全グリップ
検 定 12inch バット	86.36 89.26cm以内	5.72cm以内 +0.79mm	1.08kg以内	25.4cm以上 38.1cm以内
検 定 11inch バット	81.3cm以内	5.08cm以内 +0.79mm	1.08kg以内	23.8cm以上 35.8cm以内
検 定 1号 バット	78.8cm以内	5.08cm以内 +0.79mm	1.08kg以内	23.1cm以上 34.6cm以内

※ルールブックの一覧表に合わせ、12inch、11inch、1号バットの順に表記を変更

P169

◎オフィシャルバットの 検定マークと表示

(2)木製バット ③号数

◎オフィシャルバットの規格基準

※改訂理由(修正理由)

ゴムボールが新意匠球となる
ことに伴い、

3号バット→12inch バット

2号バット→11inchバット

と順次、変更となっていく予定の
ため、一覧表を修正した。

※ただし、従前の商品も従来通り
使用することができる。

P170

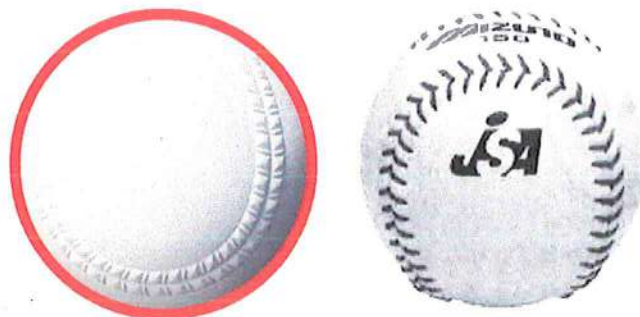
◎オフィシャルボールの 検定マークと表示

※改訂理由(修正理由)

ゴムボールが新意匠球となる
ことに伴い、12inch(旧3号)球の
画像に差し替え、表示した。

◎オフィシャルボールの検定マークと表示

(公財)日本ソフトボール協会からオフィシャルボールとして検
定承認を認められた製造業者(販売業者を含む)は、(公財)日本
ソフトボール協会の制定した検定マークを表示しなければならない。
い。



P170

◎オフィシャルボールの 規格基準

※改訂理由(修正理由)

ゴムボールが新意匠球となる
ことに伴い、一覧表を修正。1号ボ
ールの欄は削除し(協会主催大
会での使用がなく、今後製造予
定もない)、「協会2号ボール」を
「検定11inchボール」、「協会3
号ボール」を「検定12inchボ
ール」と名称・表記を変更した。

◎オフィシャルボールの規格基準

名 称	周囲と誤差	重さと誤差
協会1号ボール(ゴム)	26.7 cm ± 0.32cm	141 g ± 5 g
(革)	30.48cm ± 0.32cm	187.82g ± 10.63g
検定12inchボール (ゴム)	30.48cm ± 0.32cm	190g ± 5g
検定11inchボール(ゴム)	28.58cm ± 0.32cm	163 g ± 5 g

削除

※ルールブックの一覧表に合わせ、12inch、11inchの順に表記を変更

P173

◎公認・推奨用具用品について

※改訂理由(修正理由)

ルール3-5項1に「フェイス
マスク」が追加されたのに伴い、「投
手・野手用フェイスマスク」を追
記した。

◎公認・推奨用具用品について

- (1) 検定用具(バット、ボール、打者(走者)用ヘルメット、捕手
用ヘルメット)の他に、日本ソフトボール協会では、次の用具・
用品について審査の上、公認および推奨用具用品として使用を
すすめている。

○公認 捕手用のマスク、プロテクター、レガーズ。
審判員用のマスク、プロテクター、レガーズ。

○推奨 グラブ、ミット、ファーストミット、スパイク、
投手・野手用フェイスマスクその他

(公認・推奨メーカー・卸商一覧表 P181)

- 特別推奨JSAマーク入り審判ウェア '03年度から新設され、
公式試合での着用が認められた。

- (2) 公認・推奨用具用品等の表示について

○公認用具・用品には公認マーク、推奨・用具用品には推奨マ
ークがある。'03年度から特別推奨JSAマーク入り審判ウェアが
新たにできた。

表示にあたっては、公認マーク、推奨マーク、JSAマーク
など、任意としている。

参考資料 ケースブック 改訂第7版 掲載事例

参考資料として、「オフィシャル ソフトボール ルール ケースブック」改訂第7版に掲載されている「新意匠ゴムボール」関連の事例を「参考資料」として紹介する。

RULE 3

用具

CASE 3-1-5

Q J S A (日本ソフトボール協会) の検定済みのバットならば、「革ボール」「ゴムボール」の大会を問わず、どの大会でも使用してもよいか。

A バットには12inch、11inch、1号がある。12inchには、「ゴム・革ボール用バット」と「ゴムボール用バット」があり、革ボール使用大会で「ゴムボール用バット」は使用することはできない。12inch球は、12inchバットを使用しなければならない。11inch球は、11inchバット、1号バットのどちらを使用してもよい。1号球は、11inchバット、1号バットのどちらを使用してもよい。

(注) 2013年度より「新検定マーク」が表示されたバットの発売が開始されている(ゴム・革ボール用、ゴムボール用とも)。「新検定マーク」表示のバットには、従来使用されていた「証紙」の添付はなく、「新検定マーク」の表示だけとなる。また革ボール使用大会では、2016年度以降、「新検定マーク」表示のバット以外は大会で使用することはできなくなった。

また、2026年度からゴムボール使用大会の公式球が「新意匠ゴムボール」に変更された。それに伴いボールの名称も「3号球」が「12inch球」に、「2号球」が「11inch球」に変更されたが、現行販売されている商品、個人・チームが保有しているバットについては旧表記の「3号」「2号」のものも変わらずに使用できる。



3号→12inch
に表示変更
※2号は11inch

ゴムボール用は
この部分が「ゴム」
と表記される

新意匠ゴムボールの導入に伴い名称変更

3号バット	→	12inchバット	革ボール使用大会	12inch(旧・3号)ゴムボール使用大会	11inch(旧・2号)ゴムボール使用大会
ゴム・革ボール用	→	ゴム・革ボール用	○使用可	○使用可	×使用不可
ゴムボール用	→	ゴムボール用	×使用不可	○使用可	×使用不可
2号バット	→	11inchバット			
ゴムボール用	→	ゴムボール用	×使用不可	×使用不可	○使用可

◀ (ルールブック) 3-1項8・9、3-2項2

(競技者必携) 用具の手引き ◎オフィシャルバットの検定マークと表示 ◎オフィシャルバットの規格基準

ボール(球)

CASE 3-2-1

Q J S A (日本ソフトボール協会)の主催大会で、あるチームが、「私たちはいつも〇〇社のボールで練習しているので、そのボールで試合を行いたい」と申し出た。この申し出は認められるか。

A J S A (日本ソフトボール協会)主催大会では、その大会ごとに使用球を決め、大会を行っている。大会使用球に定められたもの以外は、その大会では使用することはできない。大会使用球は、当該年度ごとにJ S A (日本ソフトボール協会)が決定し、オフィシャルホームページ等で年度初めに発表している。

また、2026年度からゴムボール使用大会の公式球が「新意匠ゴムボール」に変更された。それに伴い、旧・3号球が「12inch球」に、旧・2号球が「11inch球」に名称が変更された(1号球は今後生産される予定はない)。2026年度以降に開催される生涯種別、高校種別の全日本大会については、新意匠「12inch球」「11inch球」を公式球とする。



3号→12inch



2号→11inch



☛ (ルールブック) 3-2項

(競技者必携) 用具の手引き ◎オフィシャルボールの検定マークと表示 ◎オフィシャルボールの規格基準